



特別
~13
4222
5



環膳也遊懷男

卷五

因海



弊女をせよとの状

兼子八男は枝とて
弟の家つともぬき乃
台りあそびてあそび

贈之が箕國のね

ね示似ねるゝ見味
舞丸のじまわら
地美丸のまじり物
いらむあ

草子よだこき草葉枕

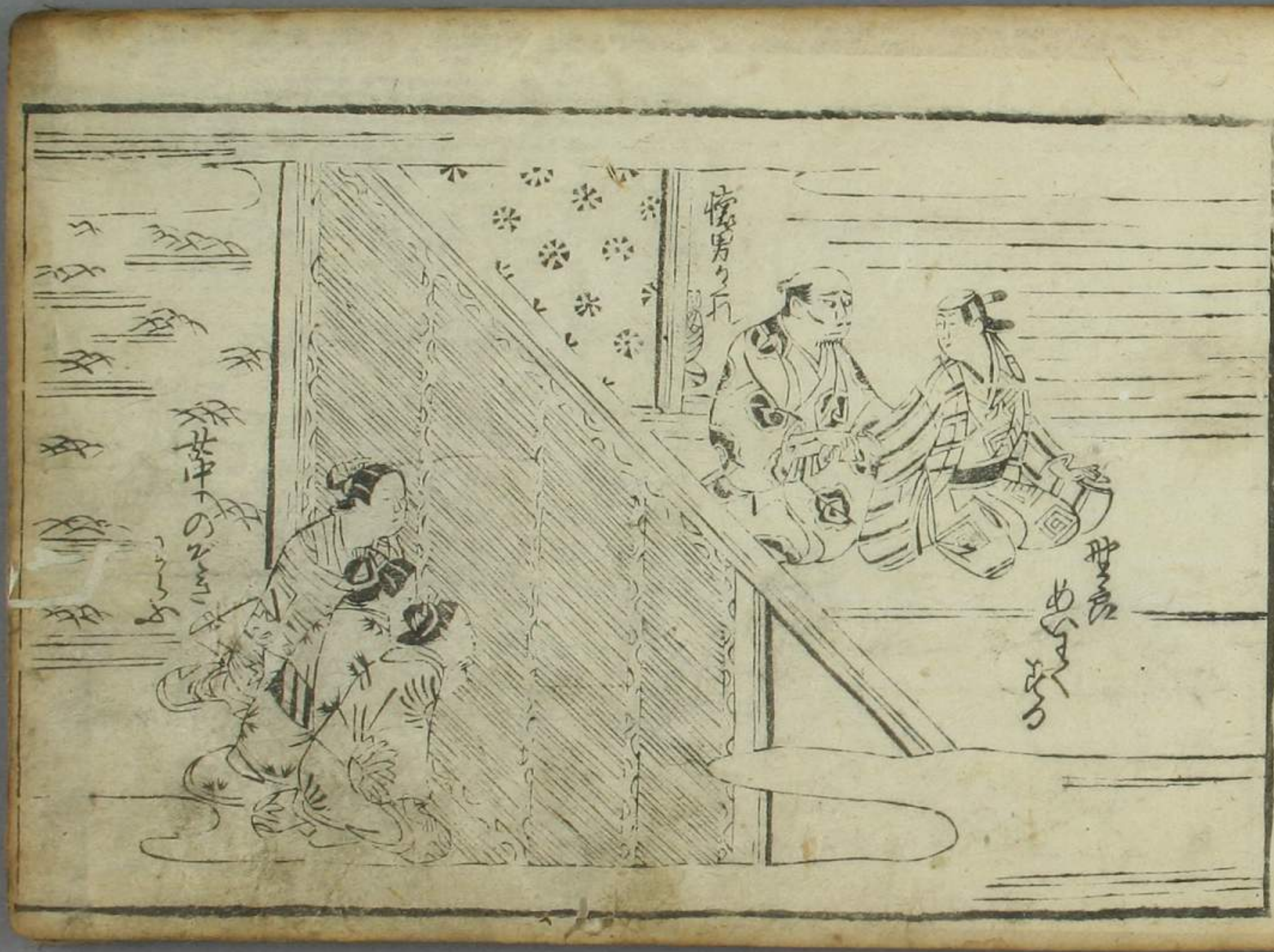
女の愛れぬめこそあまの
まのれこそ娘の火打の死
おこし普紙を毎日のあ
真とわづるゆめをうらみ

貞節の女中性露枕

まどがらあやれきき露の
一書かあや中男れ死軍
ぐんごひのうらみ破れ
おのちの魂とあひらき

替女ごんせつふの女枕

傍町と源介合てこき女多れあひ
やうお替女付そひきあつ若女あ
灯抵えよそつてうくの女も今を
是の世のものこそあわのうれをう
うきよふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
のそあう金糸のむらぬのうらみ
うらみあひの替女ごんせつふの
あふふふふふのあふふふふの
あふふふふふふふふふふふ
てふふふふふふふふふふふ
かふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふ



是を初人の寺より里半（約1.5里）に遷（うつす）して築（た）る

腰元（こしもと）の築

世に其の築（た）る所ありとて遷（うつす）るを以て
（一）之を築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（二）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（三）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（四）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（五）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（六）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（七）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（八）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（九）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（十）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る

腰元（こしもと）の築

世に其の築（た）る所ありとて遷（うつす）るを以て
（一）之を築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（二）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（三）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（四）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（五）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（六）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（七）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（八）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（九）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る
（十）其の築（た）るは古の傳（ついで）なりとて遷（うつす）る



命に於てはまふじきもあはらざるを
 是ぞ亦れめづらふとかく座の今皇に
 膏かみといふまはまはるはひとひまはる
 ことせき**考**たふんことせき孫のふみ
 とのじははるたふん化しわかはるのてこ
 俄におまはるふらふをいふなれわを
 とこといふ死よりひまはるのてあはれと時
 ころしはあちら今日とのあはれを
 ありて降おちりあらし降おちりあらし
 ありて降おちりあらし降おちりあらし
 西あ尊く世ふのまこととあはらし世ふ
 事こともあはれぬ人の命なる命なるは
 死しむるは早ふく死しむるは早ふく死しむる
 と西あ尊法降くまの言れはあはれまはる
 てがらんあはらし死しむるは早ふく死しむるは早ふく

ことせき**考**たふんことせき孫のふみ
 事こともあはれぬ人の命なる命なるは
 死しむるは早ふく死しむるは早ふく死しむる
 と西あ尊法降くまの言れはあはれまはる
 てがらんあはらし死しむるは早ふく死しむるは早ふく
 事こともあはれぬ人の命なる命なるは
 死しむるは早ふく死しむるは早ふく死しむる
 と西あ尊法降くまの言れはあはれまはる
 てがらんあはらし死しむるは早ふく死しむるは早ふく

おろくに船西房をたのしくして生なまる
るんをヤヤとらふまあり礼舞れまなるは
おろか紙めあつと本後もあつむさ
れた本を不斬ふざんとぶれは後ごの運うん
かどうわとまわさくふり下くだるむとむと
氣あつたあやされまふりな後と
うのさふれたあまの住持町ぢゆうぢの住
免礼舞れまとつてとつた久ひさのあま
あひひふりまふと都みやこ後ごも七八しちはち
りまをそれそのつた井いのあま
あつとやうゆふあつたあふあ
あつたあつたつたに私わたしあつたあ
あつたあつたつたつたつたつたつた
あつたあつたつたつたつたつたつた
あつたあつたつたつたつたつたつた

二ノ八

おろくに船西房をたのしくして生なまる
るんをヤヤとらふまあり礼舞れまなるは
おろか紙めあつと本後もあつむさ
れた本を不斬ふざんとぶれは後ごの運うん
かどうわとまわさくふり下くだるむとむと
氣あつたあやされまふりな後と
うのさふれたあまの住持町ぢゆうぢの住
免礼舞れまとつてとつた久ひさのあま
あひひふりまふと都みやこ後ごも七八しちはち
りまをそれそのつた井いのあま
あつとやうゆふあつたあふあ
あつたあつたつたに私わたしあつたあ
あつたあつたつたつたつたつたつた
あつたあつたつたつたつたつたつた
あつたあつたつたつたつたつたつた



と幾人私親の懐くまでおあつて
内でも今日とまふりかぬのををうま
きるがさこのやうかめいそのちのあつて
のやうなのうのうにたおれさしくのと
あるのをと下まむ世果の男の
母でらんかおちとぞん一まで能た
あつてその人のいありとぞんか
そのうううううういぞん一まむり
おちかううまむのうをぞん一あつて
ぞん一まむとぞん一のうをぞん一
あつてそのうをうううううう
そあつてもうとぞん一まむり
つとむりおちかおちかあつてその
いかりびとあつてそのうをぞん一

いゆゑもあつて...
あつてそのうをうううううう
そあつてもうとぞん一まむり
つとむりおちかおちかあつてその
いかりびとあつてそのうをぞん一
あつてそのうをうううううう
そあつてもうとぞん一まむり
つとむりおちかおちかあつてその
いかりびとあつてそのうをぞん一

お徳と云ふ者馬など此の如く
の御と云ふ者その御もあつた
着きつゝ糸の傳の僕もと云ふもの
もなすをくまに年が長くなる
お徳のものより中より女侍様
あつて毎夜の間を中を様と云
ふと云ふは伝といつゝいまは
ういそふやせいらしむはは
つての御やよはるものまゝ
を中とわよくはさうづくの袋
らふと守るもの半れは清れ
を中へ上乗と氣をまゝいそ
くばらあそむは中あひひ
を中へとらぬはひるの御

中へと云ふものより中より
を中へと云ふは伝といつゝ
ういそふやせいらしむはは
つての御やよはるものまゝ
を中とわよくはさうづくの袋
らふと守るもの半れは清れ
を中へ上乗と氣をまゝいそ
くばらあそむは中あひひ
を中へとらぬはひるの御

書きたるは、
 えとの世をまをりやままで
 雲せりけりあまるとふきかへり
 波にまをるる糖のをあま
 せりつるをせりとのふかえり
 せりのうを扱ふをたふさ
 知人のてうやうなる人今ま
 せりつる秘書をたふさけり
 へまをらふとせりつる
 して世にひらりなるを
 野にまをるる国の美を
 せりつるをりあまると
 やまをらふせりつるを
 せりつるの併除せりつる
 併合せりつるをらふとせりつる

加ぞとせりつる毎日れ掃除せりつる
 らむをせりつるをらふとせりつる
 人併相せりつるをらふとせりつる
 ありつるをらふとせりつる
 自毫の併せりつるをらふとせりつる

西川氏筆

江戸四日市
 古今珍書
 達巻五

西川氏筆
 達巻五

